

Arlene

Bret

Cindy

Dennis

Emily

Franklin

Gert

Harvey

Irene

Jose

Katrina

Lee

Maria

Nate

Ophelia

Philippe

Rita

Stan

Tammy

Vince

Wilma

レコード軽術

秋

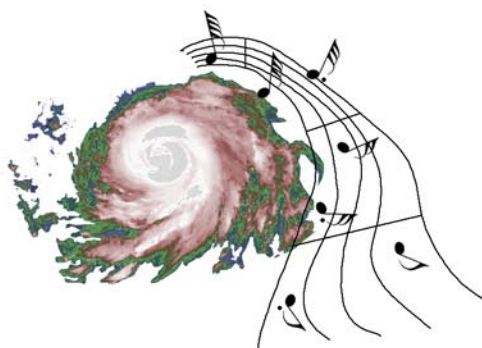
Vol.36 2005

[今月のアーティスト]
アンドレアス・グラッセル



クラブバック・サヴァイヴァル

The Survived Classical Music



伝統の雅楽も国際化が止まらない



シルクロードからやってきたといわれる幻の楽器・欧州琴を復元
ブルガリアの名手

カロヤン・S・マハリャノフによる名演がCDに

佐渡嶽 勝紀 作曲

《オクトーバー・ステップス》

永田町管弦楽団 新人演奏会

皆様の声援によって入団した 83 人のお披露目です



チルドレン
シューマン作曲《子供の情景》
(小泉変一郎編によるオーケストラ版)

2005.10.1 7時開演 入場無料

東京メルパルクホール（郵便貯金ホール）

終演後 抽選で 20 名様を

料亭 吉凶 にご招待します。



謎のピアニスト

アンドレアス・グラッセル

百八十年の放浪か

アンドレアス・グラッセル (Andreas Grasse) という青年をご存じだろうか。今年の春、イギリスの海岸でずぶぬれで発見され、病院に運ばれたものの、一切言葉を交わさずピアノを弾くだけだった。やがて「ピアノ・マン」と呼ばれるようになり、世界中の話題となった。ところが、八月になって彼自身が身元を明かし、自作自演



の狂言説も浮上し、割り切れないまま決着を迎えた。

ところが、まだ謎は深まるばかりなのだ。彼の写真を見て見覚えがあるような感情を持ったのは私だけではないだろう。その写真は、シュベルトの生家に展示されている、生前親しかったピアニストの肖像画にそっくりなのだ。顔といい、ポーズといい、偶然にしては出来過ぎている。

さらに驚いたのは、手に持っている楽譜である。写真にある方は彼の自筆による自作の作品

だという。不鮮明ではあるものの、肖像画中の譜面を比較するとまったく同じ曲のように見える。このことに気が付いてからはいても立つてもいられず、ウィーンに足を運びさらに詳しく調べるに至った。

まず、肖像画の人物はシューベルトの作品を多く初演したレサーグ (Lessarg) というピアノリストで、一八二五年に行方不明になったとい

うことがわかった。肖像画を前にし、譜面を調べた結果、曲は即興曲作品90の第四番の中間部によく似ていることがわかった。

このピアノリストはシューベルトから自作の演奏を委託されながら失踪してしまったのだろうか？そして、なぜ現代に現れたか、不思議なことも起こるものだ。

その後の「ピアノ・マン」については、音楽

からは遠ざかっているそう
うで、「作曲もするピアノの名手」だったのは病院に担ぎ込まれた直後のことらしい。百八十年を隔てて何が起こったのか、それは永遠の謎かも知れない。



「楽譜を持ったレサーグ」作者不詳・1825 年頃



小泉変一郎指揮 永田
町管弦楽団

新譜月評 The Record Keijutsu 交響曲
■シヨスタコビッチ…交響曲第5番《革命》

鳴り物入りの派手な宣伝で話題になったデイスクだ。「これこそ本物、これを買わないクラシック・ファンは頭が保守的だ」といわれて買ってしまった人も多いだろう。

しかし、派手な宣伝自体が問題がある。まず、「革命」と標題を付けるのがおかしい。作曲者のシヨスタコビッチによって付けられたものではない。初演の日が何かの革命記念日であったからとかこじつけられているが、この標題は「運命交響曲」同様、あとになって「商売上」付けられたに過ぎない。

い。作曲者にとつても不本意かも知れない「革命」という呼び方をうまく利用して、何か新しいことをやっているのだという印象を鳴り物入りで宣伝したのは、さすが小泉流、うまい。

演奏は例によつて歯切れのよいものだ。

明快なアクセント、率直な表現は定評のあるところ。しかし、これまでも指摘していたことであるが、長いフレーズとなると意味不明、はぐらかされたような感じになり、薄っぺらな表現になる。年季の入ったリスナにはもの足りないのではあるまいか。

「録音評」 9月11日厚生年金会館で録音。編成の大きさに對して左右の広がりが今ひとつだ。演奏者あるいは指揮者の指示によるのかも知れないが一部の楽器がクローズアップされる。派手さはあ

永田町管弦楽団は今回の録音に際してアンサンブル能力に欠ける団員を多数リストラし、新団員を公募した。新団員を加えた大編成の響きはまだオケになれていないゆえのバランスの悪さが散見されるものの、迫力満点。

今回のディスクは予想外の売れ行きで、一部では品不足が伝えられている。宣伝につられてつい買ってしまったけれど、少しもよくなかったという方は返品して手に入らなかった方に回して欲しいというのがディスク管理委員会の通達である。



石橋伸高指揮 城西
フィル

新譜月評 The Record Keijutsu 管弦楽曲

■魅惑のマーチ集…シュトラウス／ラデツ
キー行進曲 ベルリオーズ／ラコッツイ行
進曲 シューベルト／軍隊行進曲他

新人指揮者がなじみの曲を振ってさわやかなデビューといいたところ、素直に取り上げられない。「デビュー」した石橋伸高の本業はヴィオラ奏者、先頃一般公募で団員を大幅に増やした永田町管弦楽団の新入団員だ。やがては指揮者を志望なのかも知れないが、駆け出しの彼がCD発売とは恐れ入るばかりである。

こうした企画には当然ながら裏がある。伸高氏の父親は知るも知る、あの東京都交響楽団の重鎮である。息子のデビューに父親が動いたのは疑いない。伸高本人は親

の援助は一切受けていないというが、それならば偽名でデビューすべきだった。かの名指揮者カルロス・クライバーがデビューのとき父親エーリヒの息子と知られることをきらい、カール・ケラーという名でデビューしたのは知る人ぞ知る事実である。

それでも、すぐにエーリヒの息子であることは知られるが、父子の名声はやがて逆転し、「エーリヒはカルロスの父親」となったのは周知のことである。才能は知名度に関係なく評価されたのだ。

「録音評」 この演奏団体の実体は永田町管弦楽団であるという噂があったので、これまでのどちらかといえなくすんだ音を予想していたが、外れた。録音機材の特性も、ミキシング技術もまったく異なるコンセプトから成っている。スペクタクル映画のバックにも使えるような壮大な響きだ。「本家」の方も随意契約でマンネリ化した録音技術者と決別して良質で安価なサウンドを残して欲しい。

収録されている曲は素人指揮者向きのテンポの動きの少ないものが選ばれている。城西フィルというのは聞き慣れない名前だが、実体は永田町管弦楽団のメンバーで、下稽古は小泉変一郎。すると、指揮者はコンマスの細田か武部かに合わせ振っていたのだろう。団員はさぞ疲れたに違いない。収録風景が見たい。

このような楽壇私物化というべきディスクがメジャー・レーベルから出たのは情けない。世襲化反対、買ってはならない。

新譜月評

その他

歌咲風邪彦

新譜月評 The Record Keijutsu その他

■カンタービレ・シユーベルト《鱒》ハイ
ドン交響曲《時計》モーツァルト《アイネ・
クライネ・ナハトムジーク》チャイコフスキー
《花のワルツ》他



NHK 交響楽団 東京交
響楽団 大阪フィル他

文部科学省企画の懸賞付きの話題のディスクである。音楽の授業に出てくる名曲を聴かせたあと「これを演奏している指揮者はだれか」というクイズがあつて、三曲連続で当たると五千元もらえるというもの。ディスクの売り上げの収益は公立学校の音楽施設などの基金に回される。

この企画の裏にはサツカーくじの不振がある。教育に携わる役所がギャンブル奨励とはなんのことかと批判され、おまけに赤字状態になった。今度は「お勉強」が入っているからいいだろうという魂胆があるに

違いない。

演奏は実際に活動しているプロの団体によるもので、質の高さは十分。指揮者当ての正答率はどれほどのものだろうか。日頃難しい言葉を書き連ねている評論家諸氏も試みたらいか。結果が知られると評論家生命にかかわるため公表されないだろうが、知りたいところだ。

演奏収録にはかなりの人員が関わる。正解の漏洩があると犯罪にもつながりかねない。どう防止されているのか心配だ。タイトルの「カンタービレ」は音楽用語だが、今話題の漫画に便乗したことは

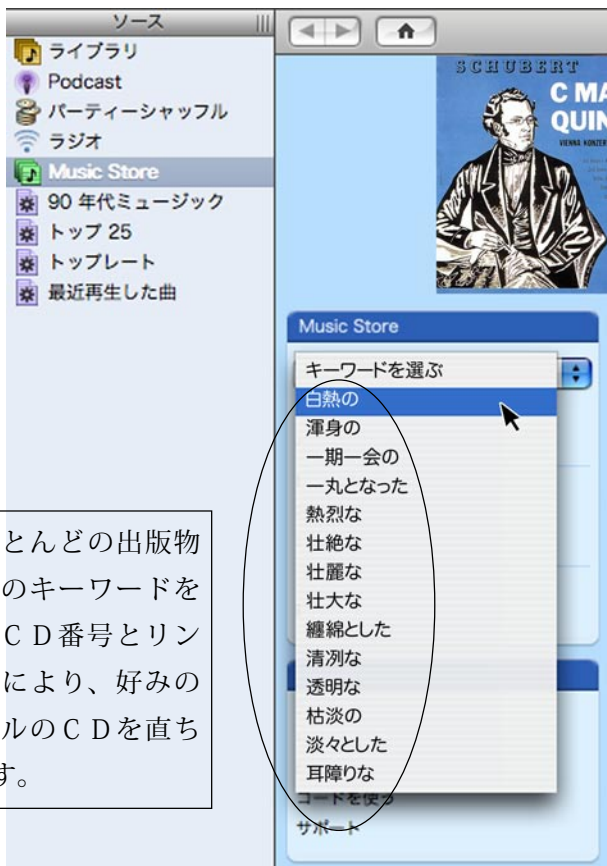
明らかだ。文部科学省の担当部署に問い合わせたところ、そうではないとのこと。実際は便乗したのであるが建前上そうはいえないのだろう。官僚的答弁だ。

文部科学省としてクラシック音楽への理解を広げる意図は大いに賛成だが、役所主導でうまく行った例がない。音楽家でも金儲けのうまい人はいる、そちらに任せたらどうか。今回の企画はタイトルからして民間の後追いであるし、赤字を垂れ流さないことを願っている。

〔録音評〕 複数の演奏団体による演奏ゆえ、相応の響きの違いを予想したがあまり感じない。クイズの正解とも絡むので管理されているのだろう。優等生的にまとまった音作り。

今や音楽はネットで検索しダウンロード

好みの演奏がすぐ選べる **iTerm** 登場

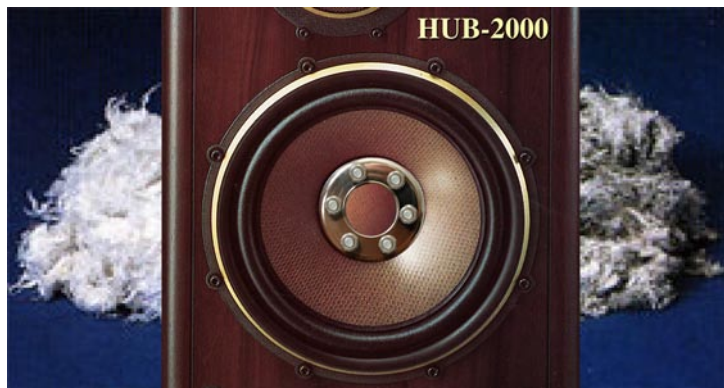


国内のほとんどの出版物から音楽評のキーワードを取り出し、CD番号とリンクすることにより、好みの演奏スタイルのCDを直ちに見つけます。

ただいま評論家の方々に語彙を増やしていただくよう交渉中で、実現次第運用を開始します。

商品の欠陥報告と回収に際してのお願い

昨年 4 月、往年の名器の復活としてコーン紙のハブ部分の欠陥を改善した HUB-2000 を発表いたしました。



その後オーディオ・ファンの方々から、大入力でコイルが過熱し、発煙するという指摘を多数受け、調査したところ、最近のアンプのハイパワー化に耐えられない材質を使っていたこと、さらにロットによっては発ガン物質のアスベストが使われていたことが判明しました。

発煙したものは直ちに回収に伺いますが、出た煙の色をその際にお教え願います。「白い煙」ならば非アスベスト製品、「黒い煙」ならばアスベスト製品です。

DINATONE[®]

三菱不響オーディオ

この冬は ウォーム・リス (Warm Listening)

灯油なしでも音楽を聴くときは暖かい



この夏の話は「クール・ビズ」。軽装になることで冷房のエネルギーを節約できました。今度の冬は暖房温度を低めに。

せっかく採取した石油資源も聴かないCDになっていたのでは無駄です。CDをクリーンに燃焼するファンヒーター新発売。リスニング・ルームに最適です。

読者の方々に当社在庫の雑誌付録CDなどを暖房燃料として差し上げます

CD引換券 オントモグループ

有効期限 2005.10.1

オントモ燃処理 (株)

編集後記

今号は9月にあった衆議院選挙のネタばかりになる傾向があつて困りました。実際、あんな「面白い」選挙は滅多になさそうです。

一方で、春から夏にかけて本誌の熱心な読者が二人他界しました。どこかで読んでもらっているような気がしてなりません。ちょっと寂しさを感じる秋になりました。

バックナンバーのハイライト、真面目なエッセイなどを
<http://www3.ocv.ne.jp/~yanagawa> で見ることができます。

レコード軽術 '05 年秋号（通巻第 36 号）

2005.10.11 第 1 刷発行

編集発行人 柳川誠介

〒195-0054 町田市三輪町 539-119

TEL&FAX (044) 989-8510

yanagawa@m2.ocv.ne.jp

PDF01426@nifty.ne.jp

印刷・製本 家内工業

hiroko-y@m2.ocv.ne.jp

